

# 地 歴 科 学 習 指 導 案

令和4年10月 3学年 指導者 宮崎 大志

## 1 単元名 「沖縄返還」

## 2 単元観

本単元は日本がどのようにして主権を回復させたかについて扱う。日本はサンフランシスコ平和条約調印によって主権を回復させたが、そのとき達成されなかった沖縄の主権回復がどのような背景のもとで達成されたかについて理解させたい。それには冷戦に伴う国際環境の変化や国内の社会状況を関連付けて考察する必要がある、本単元は多面的・多角的に考える力を養うために有用な単元と考えた。

## 3 生徒の実態及び指導方針（男子9名 女子26名 計35名）

このクラスは校外の大学や企業との連携活動を積極的に行う文系クラスと文系普通クラスの日本史選択者で構成される。特に校外の大学や企業との連携活動を積極的に行うクラスの生徒はプレゼンテーションの経験が文系普通クラスよりも多く、ICTを活用した授業に積極的である。

## 4 研究との関わり

平成30年度告示高等学校学習指導要領地理歴史編の目標には「地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」とある。しかし、第3期群馬県教育振興基本計画では児童生徒の学力の状況について「知識・技能を活用する能力を育成することが課題」と指摘している。

これに対し、本校生徒の多くは日々の学習に対して真面目に取り組み、教師の提示する知識・考え方を積極的に理解しようとしているが、提示した知識・考え方の理解に留まり、歴史的事象の多面性や多角性について考察しようとするのは苦手である。

そこで、ジグソー活動を取り入れ、複数の資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を育てたいと考え、上記の通り課題を設定した。その際、年間を通じて行えるようにICT機器を活用し、20分間を目標としたジグソー法を取り入れた。

## 5 単元の目標

- (1) 日本の主権回復の過程について、国際環境の変化や国内政治と関連づけて理解する。（知識及び技能）
- (2) 日本の主権回復の過程における歴史的事象がどのような背景のもと起こったか、多面的・多角的に考察し、表現できる。（思考力・判断力・表現力）
- (3) 国際環境や国内政治を関連づけて日本の主権回復の過程に関心を持ち、自分なりに歴史的事象を評価し、主体的に追究、解決しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

## 6 単元の評価規準

- (1) 知識・技能
  - ① 日本の主権回復の過程で国際環境の変化や国内政治が深く関係していることを理解している。
- (2) 思考・判断・表現
  - ① 日本の主権回復が国際環境や国内政治とどのように関係していたか、多面的・多角的に考察し、表現している。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
  - ① 日本の主権回復の過程について国際環境や国内政治を関連づけて考察し、歴史的事象を自分なりに評価し、その課題を主体的に追究しようとしている。

7 指導と評価の計画（全5時間）

	時間	●ねらい ○学習活動 ☆ ICT活用	知	思	態	◇評価項目<方法（観点）> 〔記〕：記録に残す評価
つかむ	1	<p>[単元の学習課題（単元・題材を貫く問い）] 日本はどのようにして主権を回復させたのだろうか？</p> <p>●問いに対する予想を立てる。 ○占領政策の方針がなぜ転換することになったのか、予想を立てる。 ●冷戦の勃発に伴ってアメリカが日本を西側陣営の一部に組み込む必要性が高まったことを理解させる。 ○占領政策の転換がその後の日本にどのような影響を与えたか資料を読み取り国際環境と関連付ける。</p>	○		○	<p>◇問いに対して興味をもち、予想を立てている。 ＜ワークシート（態①）＞〔記〕 ◇占領政策の転換には冷戦の勃発に伴って日本を西側陣営の一部として組み込む必要性に迫られた背景があったこと理解している。 ＜ワークシート（知）①＞〔記〕</p>
	2	<p>●朝鮮戦争の勃発は当時の日本にどのような影響があったか考察し、表現できるようにする。 ○特需景気や警察予備隊創設の背景について考察し、日本の国際的地位の変化を表現する。</p>		○		<p>◇占領政策の方針が転換したことで、経済復興が早まるとともに再軍備も行われたことを考察し、表現している。 ＜ワークシート（思）①＞〔記〕</p>
	3	<p>●サンフランシスコ平和条約によって主権を回復した一方で、GHQによる諸法令の執行に伴い、政府による国民統制が強化されたことを表現する。 ○独立回復の一方でGHQによる統制から政府による統制に伴う国内の反発も生じたことを考察し、表現する。 (☆)</p>		○		<p>◇GHQによる統制から日本政府による統制へ移行する中で様々な社会問題が発生したことを考察し、表現している。 ＜ワークシート（思）①＞〔記〕</p>
	4	<p>●安保条約調印の過程と現代に通じる安保問題の課題を主体的に追究する。 ○日米安全保障条約調印の過程やその後の問題について、現代の米軍基地問題とどのような関係性があるか主体的に追究する。</p>			○	<p>◇日米安全保障条約の調印過程やその後生じた社会問題について主体的に追究しようとしている。 ＜ワークシート（態）①＞〔記〕</p>
まとめ	5 本時	<p>●沖縄返還の背景について理解させる。 ○沖縄の返還について国際環境と国内問題を資料を読み取り、関連付ける。 ●沖縄返還という歴史的事象が我が国に与えた影響を多面的に考察し、それぞれの立場に応じた社会問題を考察し、表現できるようにする。 ○沖縄返還に関する資料の読み取りを行ったうえで、その意義やその後の問題点を考察し、表現する。(☆)</p>	○	○		<p>◇沖縄返還の背景にはベトナム戦争の激化に伴う沖縄の米軍基地利用に対する反発やアメリカ経済の減衰があったことを理解している。 ＜ワークシート（知）①＞〔記〕 ◇沖縄返還がどのような立場の人によってどのような意義があり、またその後どのような問題があったか考察し、表現できている。 ＜ワークシート（思）①＞〔記〕</p>

## 8 本時の展開（5/5時間目）

### (1) ねらい

沖縄返還によってその後の社会にはどのような影響があったかについて立場に応じて考察し、表現できるようにする。

### (2) 準備

教科書、資料集、ICT端末、ワークシート

### (3) 展開

時間	○学習活動 ・想定する児童（生徒）の意識 ☆ICT活用	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童（生徒）への支援 ◇評価項目＜方法（観点）＞
導入 5分	1 本時の目標を確認し、学習内容の見通しをもつ。 ○沖縄返還協定は日本及びアメリカにとってどのようなメリットがあったか考える。 ・沖縄の主権が回復した ・アメリカは軍を引き続き日本に駐留させることができた。	○この授業では沖縄返還が日本の立場あるいはアメリカの立場でどう評価すべきか考えることが重要であることを指示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p><b>【本時の学習課題】</b> 沖縄返還の影響を多面的・多角的に考察しよう。</p> </div>		
展開 ① 20分	2 沖縄返還のメリットまたはデメリットについて考察する。（☆） ○配布されたプリントにある資料を読み取り、読み取った内容をオンライン上にアップロードする。【課題1】 ・（A-1）パスポートなしで本土との行き来が可能になった。 ・（A-2）念願の祖国復帰をはたし、教育や経済の水準が上がった。 ・（A-3）米軍基地を維持しつつ、日本に基地の維持費を負担させた。 ・（B-1）基地の維持費負担を強いられることになった。 ・（B-2）返還後も米兵の犯罪や騒音、事故の問題が継続した。 ・（B-3）核兵器が撤去され、アメリカの軍事的影響力が低下した。 ○自分が読んだものと同じ記号の人の解答を参考にしつつプリントに課題の解答を記述する。【課題2】 ○2人1組のペアで沖縄返還のメリットまたはデメリットについて分かったことの共有を行い、新しく得た情報をプ	◎配布されたプリントにあるAまたはBの資料を読み、立場に応じて沖縄返還という歴史的事象にどのようなメリットまたはデメリットがあったか考えさせる。その後オンライン上で資料毎にエキスパート活動を行い、プリントに解答を実際に記入させる。解答の作成方法についてオンライン上か実際のプリントなのか明確に指示を出す。 ●オンライン上にアップロードされた他の生徒の考えを参考に解答が作成できることを指示する。 ○各資料がどの立場の人にとってどんなメリットまたはデメリットであったか考えさせる。【課題1】 （A-1は日本（政府）のメリット、A-2は沖縄の人のメリット、A-3はアメリカ側のメリット、B-1は日本（政府）のデメリット、B-2は沖縄の人のデメリット、B-3はアメリカ側のデメリットの資料として生徒に配布している。） ◇沖縄返還のメリットまたはデメリットを立場に応じて記入できているか。 ＜ワークシート【課題2、3】（思①）〔記〕＞

	<p>リントに記入する。【課題3】</p> <p>○ジグソー活動をふまえ沖縄返還の評価を行う。【課題4】</p>	<p>◇沖縄返還を立場に応じて評価できているか。</p> <p>＜ワークシート【課題4】思①）〔記〕＞</p>
展 開 ② 10 分	<p>3 沖縄返還前後の知識を身に付ける。</p> <p>○沖縄返還の背景について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム戦争の激化とそれに伴って祖国復帰運動が盛んになったこと。アメリカ側のベトナム戦争の戦況悪化による経済状況などの関連を理解する。</li> </ul>	<p>○沖縄返還が冷戦構造の中で実現した事象であることを理解させる。</p> <p>◇沖縄返還の過程について必要事項をワークシートに記入できているかどうか。</p> <p>＜ワークシート（知①）〔記〕＞</p>
展 開 ③ 10 分	<p>4 沖縄返還の影響について考察する。</p> <p>○沖縄返還後どのような問題が発生したか考え、プリントに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米軍基地が沖縄県内に残ったままとなり、騒音問題や米軍兵の犯罪行為などが問題となった。</li> <li>・米軍基地の維持費等をめぐって日米間の摩擦が生じた。</li> <li>・沖縄の人々に対する本土の人の差別問題が明らかとなった。</li> <li>・密約が明らかとなり核の持ち込みが、国民に対し秘密裏に行われていた可能性があった。</li> </ul>	<p>○日本、アメリカ、沖縄など立場を明らかにするよう指示する。</p> <p>◇複数の立場から考えを表現できているかどうか。</p> <p>＜ワークシート（思①）〔記〕＞</p>
ま と め 5 分	<p>5 本時のまとめを行い、振り返りをする。</p> <p>○沖縄返還の影響について80字程度でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本・アメリカ・沖縄それぞれの立場によって様々な影響があった。</li> <li>・本土の人も沖縄の人の立場に立って基地の問題を考えるべきではないか。</li> </ul>	<p>○沖縄返還をめぐる政治・外交の過程を振り返り、沖縄返還後の日本の政治・経済・外交について見通しをもたせる。</p>

(4) 板書計画

沖縄返還は日本及びアメリカにどのようなメリットがあったか？

4 池田勇人  
「寛容」と「忍耐」  
5 LT貿易  
問1 国内の政治分裂を收拾し、国際信用を回復するため。

ベトナム戦争  
沖縄の基地から爆撃機が多数出動し、日本が戦争に加担しているのではといった批判の声が強まっていた。

「持たず、つくらず、持ち込ませず」  
9 非核三原則  
10 沖縄返還協定  


この後の流れ  
①配られた資料から分かったことをAの人はA、Bの人はBの提出箱にカードで提出  
②解答共有をすることで、自分が提出した提出箱の他の生徒の解答を参考にプリント裏面の【課題2】を記入  
③ペアで得られた情報を共有し【課題3】の記入を行う。  
④【作業4】を記入

6 佐藤栄作  
7 日韓基本条約 (1965)  
⇒北爆開始の年  
8 祖国復帰運動

問2  
ベトナム戦争の激化に伴って、沖縄の米軍基地の重要性が高まっていたため。

問3  
・返還後も米軍兵による犯罪行為や米軍機の事故が後を絶たなかった。  
・核抜きに関する密約によって核が持ち込まれていたことが明らかになった。  
・本土人の沖縄人差別の問題が表面化した。  
⇒裏面【課題4】へ